

国際結婚における日本人女性のソーシャル・キャピタル

——香港・トルコの事例から——

中央大学 開内文乃

1 目的

この報告の目的は、近年の日本人女性の海外流出と国外（とくにグローバル・シティ）での国際結婚の増加を、ソーシャル・キャピタルの観点から分析することにある。現在、日本国内の婚姻件数は減少の一途をたどっている。しかし、日本人が関係している婚姻件数を国外まで含めると、国外における外国人男性と日本人女性という組合せの国際結婚は、過去 20 年で 2～3 倍に増加している。ここ 5 年間では毎年約 8 千組いる（2012 年の日本国内婚姻件数は推計 66 万 9 千組）。この増加の背景を、香港・トルコの国際結婚の事例から考察する。

2 方法

そこで、データとして香港・トルコで実施したインタビュー調査を使用する。2010～12 年に計 6 回、構造化面接法として行った。調査対象者は香港もしくはトルコ在住の現地人男性と国際結婚をしている日本人女性 42 名で、機縁法で募った。質問項目は、移住した経緯、国際結婚した経緯、さらに国際結婚後の生活についてであった。

3 結果

分析の結果、香港・トルコの現地人男性と日本人女性の国際結婚は、香港・トルコのソーシャル・キャピタルを円滑化していることが判明した。日本人女性はこのタイプの国際結婚にいたるまで、ふたつの段階を踏んでいる。第一段階は、日本人女性が学歴・語学能力などの人的資本を活かすために日本から香港・トルコという「グローバル・シティ」に移動することである。第二段階は、日本人女性がグローバル・シティの現地人男性と知り合い、ジェンダーという「日本的な女らしさ」を文化資本として活用し、交際を始めることである。

このふたつの段階の結果として、グローバル・シティのソーシャル・キャピタルは、日本人女性の人的資本と文化的資本を現地人男性との結婚という形で吸収する。つまり、そうしたソーシャル・キャピタルは、現地人男性と日本人女性という国際結婚を組み込むことで、補強されていると考えられる。

4 結論

以上から、国外での外国人男性と日本人女性の国際結婚の増加は、日本人女性が国内で活用しきれなかった自身の資本をグローバル・シティに移動させ、活用しようとした結果と結論づけられる。日本人女性は国内の男女差別の残る雇用環境で、高い技能（highly skilled）という人的資本を活かしきれずにいる。一方、「大和なでしこ」に代表される文化資本が国内では当たり前のこととされ、評価されずにいる。言いかえれば、このタイプの国際結婚の増加は、日本のソーシャル・キャピタルが日本人女性の資本を取り込むことができなかった結果とも言える。

文献

開内文乃, 2011, 「グローバル・ファミリーの出現——国際結婚の新しい形」『比較家族史研究』
26: 43-64

山田昌弘・開内文乃, 2012, 『なでしこ姫と絶食系男子——国際結婚の現在・過去・未来』東洋経済新報社.